

アフターフォロー実践報告

札幌市ホームレス相談支援センター分室

女性サポートアジール

施設長 波田地 利子

団体情報

asyl とはギリシャ語
で「聖域」「避難所」
「自治圏」の意味。

- 特定非営利活動法人女性サポートAsyl
- 法人設立 2015年9月
(前身：NPO法人ホームレス支援北海道ネットワークの女性シェルター)
- 職員は全員女性。常勤・非常勤あわせて5名
- 主な事業は**自立相談支援事業・シェルター事業・地域居住支援事業**の委託。
- ほかに女性に特化した障がい者相談支援事業所を運営。



マスコットキャラクター
あじーるちゃん

ホームレス支援

女性保護

障がい福祉



理念 「尊厳ある日常」

ミッション

I 行き場の無い女性や母子の一時保護と新しい生活基盤づくり

II 孤立を生まないための居場所づくり

III 困窮を生み出さないまちづくり

あじーるのシェルター

- アパート借上方式。
- 自立相談支援とシェルター事業を**セットで受託、実施**
- 週3回、利用者・職員・ボランティアで、手作りの昼食を一緒に食べる時間がある。
- 昼食後はサロン開所しており、ボランティアが常駐してお茶をしながら雑談に応じたり、自由に過ごせるようになっている。

(ミニマムなコミュニティ)



札幌市ホームレス相談支援センター

札幌一時生活支援協議会

NPO法人
自立支援事業所
ベトサダ

NPO法人
女性サポート アジュール

NPO法人
みんなの広場

NPO法人
コミュニティワーク研究実践センター
コミュニティハウス「れおん」

基幹センター（総合相談）

JOINのその他の役割

- 札幌市中心部の巡回相談
- 合同相談会/健康診断（年2回）
- 市民からの通報受付及び対応（随時）
- 制度周知事業の開催（年2回）
- 自立支援調整会議（支援プランの検討）の開催
- ネットワーク会議の開催 など

札幌市の生活困窮者自立相談支援機関

①2種類の自立相談支援機関

自立相談支援機関名称	対象	住宅確保給付金受付	受託先
札幌市生活就労支援センター (ステップ)	家のある生活困窮者	○	キャリアバンク株式会社
札幌市ホームレス相談支援センター (ジョイン)	家の無い生活困窮者 家を失いそうな生活困窮者	×	一般社団法人 札幌一時生活支援協議会

②札幌市ホームレス相談支援センターの仕組み

総合相談窓口で相談者の状況を確認し、4つの分室(シェルター)に振り分けます。)※全部で5つの団体でJOINという仕組みを運営している。



総合相談窓口



シェルター名称	ざっくりとした対象	令和5年度 利用実績
ベトサダ	一般就労可能な男性	80名 (2370泊)
みんなの広場	生活保護が必要な方	66名 (2261泊)
れおん	若者・障がいの疑いのある方	44名 (1495泊)
アジュール	女性・母子世帯	64名 (1715泊)

★支援結果 (令和5年度まで)

	A 当年度 利用開始	B: 支援終了利用 (ア+イ+ウ+エ+オ)						翌年度 支援継続
		B 小計	ア 就労 自立等	イ 生活 保護	ウ 他団体に 支援主体が移行 (入居含む)	エ 家族等との関係 回復など (帰郷 等も含む)	オ 失踪等 (分室移 動、保護受給中 の利用等含む)	
平成27年度	375	353	117	73	88	25	50	22
平成28年度	376	368	92	121	45	18	92	30
平成29年度	320	313	82	137	18	5	71	37
平成30年度	332	324	71	119	17	12	105	45
平成31年度	320	322	86	150	22	26	38	43
令和2年度	326	337	92	180	16	11	38	32
令和3年度	260	262	55	140	18	15	34	30
令和4年度	255	253	59	130	10	16	38	32
令和5年度	254	261	58	120	9	20	54	25
計	2818	2793	712	1170	243	148	520	296
	率 (100%)		25.5%	41.9%	8.7%	5.3%	18.6%	

令和5年度 JOIN全体の実績

- ①新規相談件数：811名 (実施後、2番目の多さ)
- ②シェルター利用者：237名 (男性158名・女性79名)
- ③シェルター利用者困窮時の居場所：札幌市153名・他地域84名
- ④シェルター利用者年代

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60~64	65歳以上
男性	9	22	31	29	32	15	20
女性	2	26	12	15	13	3	8

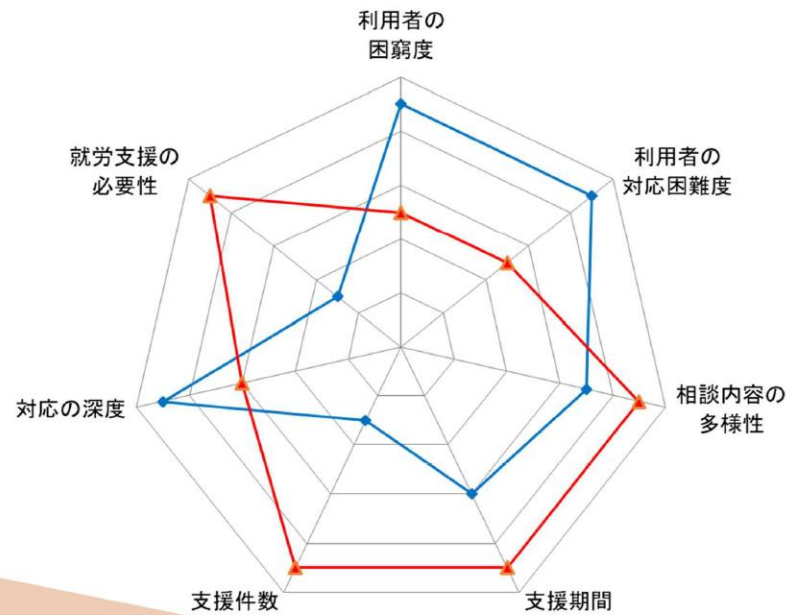
札幌市自立相談支援機関対象者のイメージ

○支援対象者のイメージ

家が無い人、家族関係等により自宅にすることが難しい方、社員寮や友人知人宅にいる方など様々です。

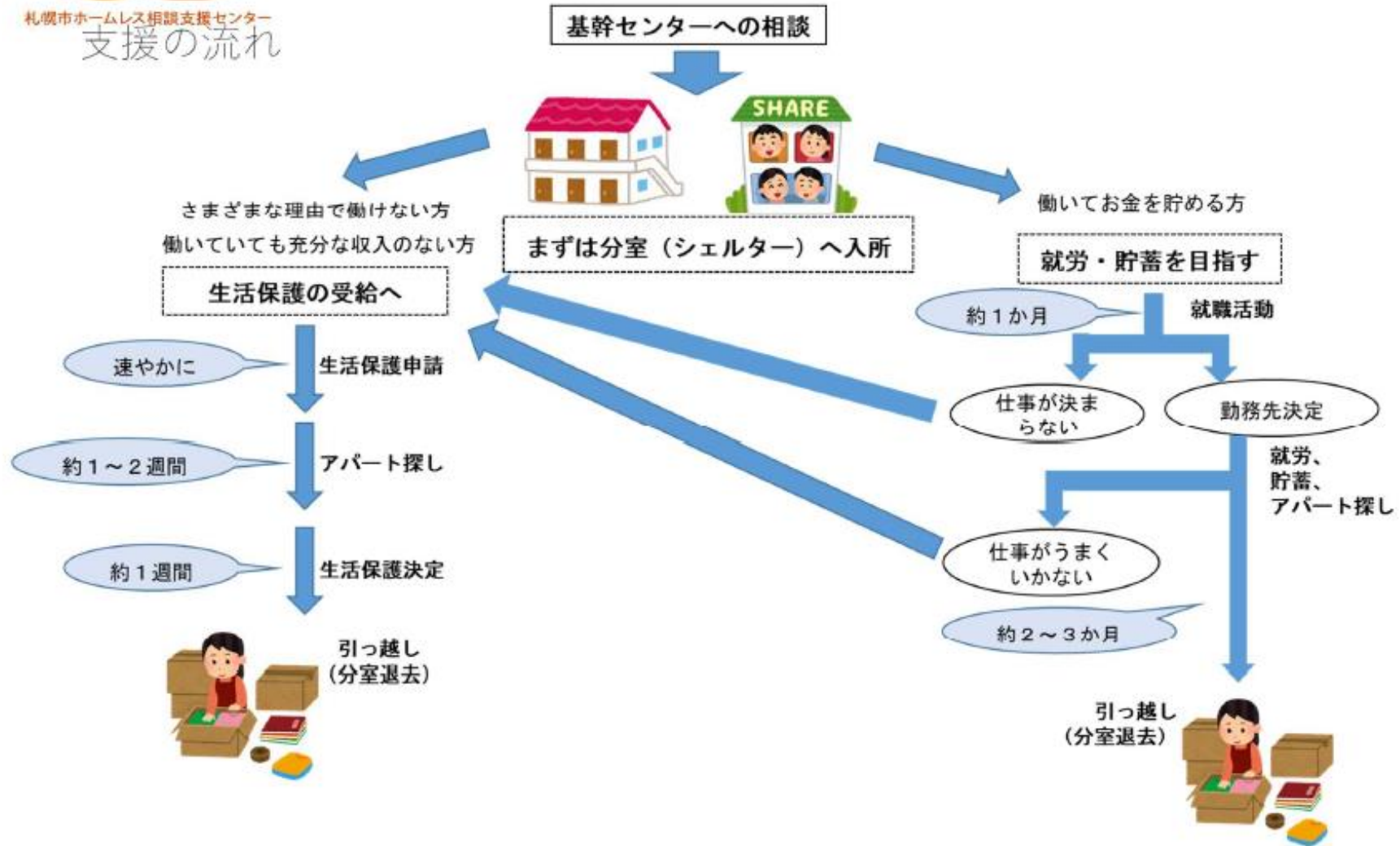
★札幌市の新任CW研修の資料より（20240807）

ステップとジョインにおける相談の特性の違い





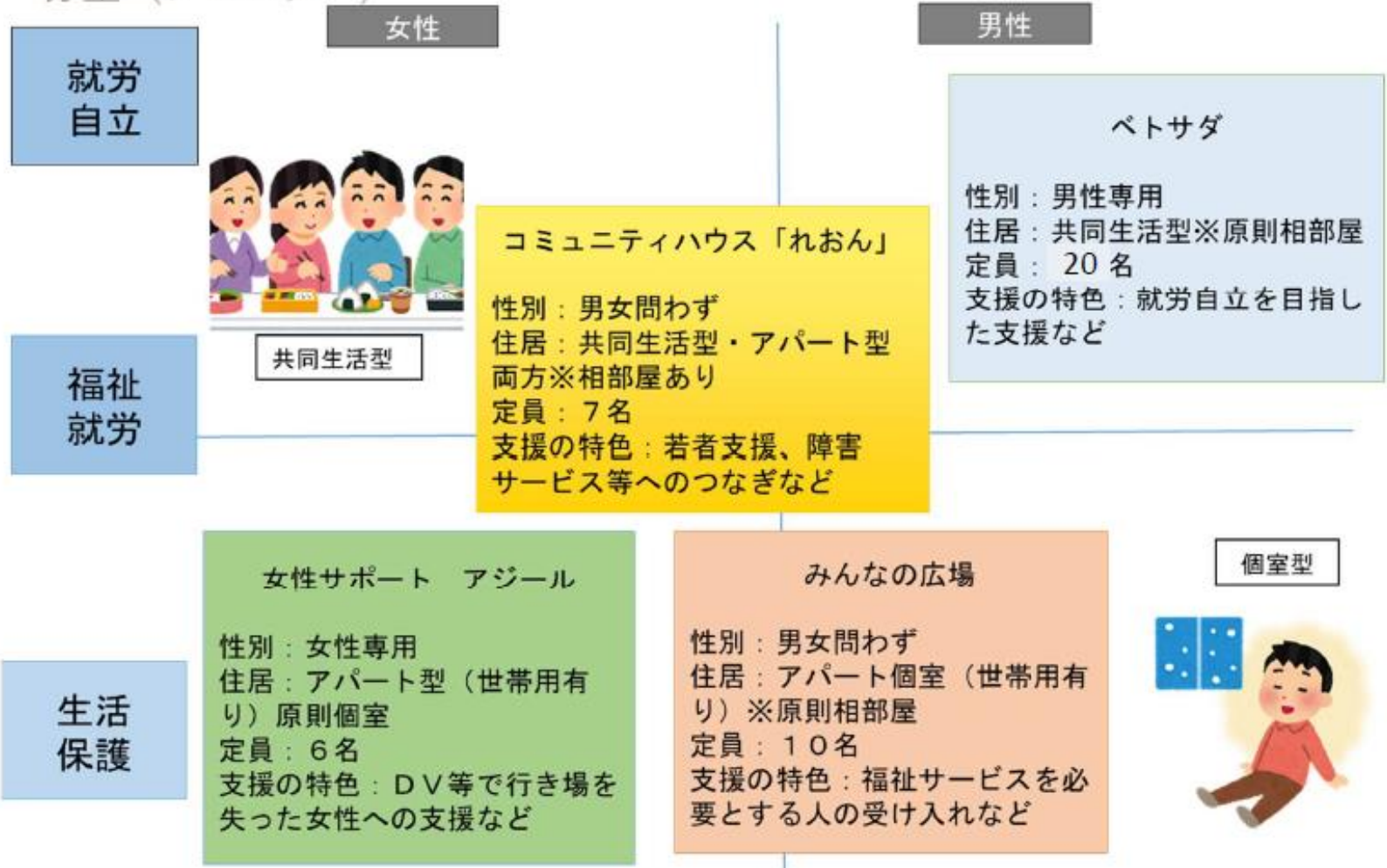
札幌市ホームレス相談支援センター「JOIN」





札幌市ホームレス相談支援センター 「JOIN」

分室（シェルター）



シェルターを退去して
地域生活が始まったあと
こんな連絡はきていませんか？

「住民票ってなに？」

「携帯ってどうやったら持てるの？」

「身分証は全部捨てちゃってない」

「離婚をしたいけど、どうしたらいいのかわからない」

「知的障害の検査を受けたい」

退去後でないとできなかったり、時間のかかる手続きのお手伝い

「もうお金があとこれくらいしかない。
生活が苦しい」

「ケースワーカーからの就労し
ろってという指導がきつい」

「生きている意味がない。死にたい」

「いまの部屋の隣の住民とトラブ
ルになって、引っ越ししたい」

退去後にかかってくる相談

「〇〇の友達だけど、自殺するって言うてる」

「家賃の保証会社ですが、▲▲さんの
の支払いがされていないのですが」

「□□の父ですが、彼女を入院させてください」

「ケースワーカーですが、最近連絡と
れなくてこのままだと廃止に」

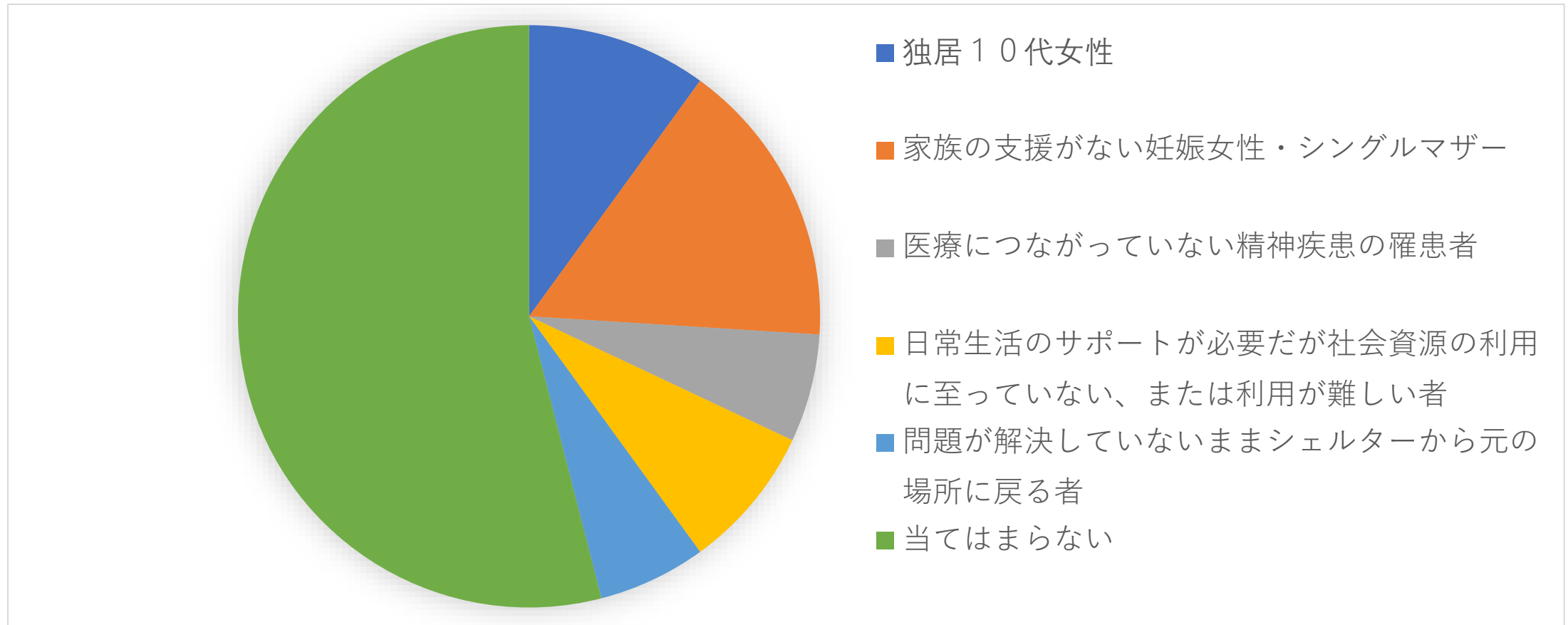
本人以外からの連絡も・・・

再困窮リスク

現場の経験から、再困窮リスクが高い5つの対象者カテゴリーを作成。

- ① 独居10代女性
- ② 家族の支援がない妊娠女性・シングルマザー
- ③ 医療につながっていない精神疾患の罹患者
- ④ 日常生活のサポートが必要だが社会資源の利用に至っていない、または利用が難しい者
- ⑤ 問題が解決していないままシェルターから元の場所に戻る者

再困窮リスク（2020年度）



全体の約半数が「再び困窮する恐れがある」に該当する

シェルター事業は、地域の入り口。

- 利用中の数ヶ月より、大事なのは**その後の数十年**。
- 生活保護を受給したら、あとはケースワーカー？
- 出口である「地域」はどうなっているか？

シェアタ—事業の利用者
= 「ホームレス」？

- ハウスレス 物質的困窮（家がない、お金がない、食べ物がない）
- **ホームレス 関係性の困窮**（身寄り、頼れるひとがない）

home（心の故郷・誰かが自分を待っている場所）-less

シェルターの利用者は「ホームレス状態」

⇒ 必要なのは**ホームの再構築**

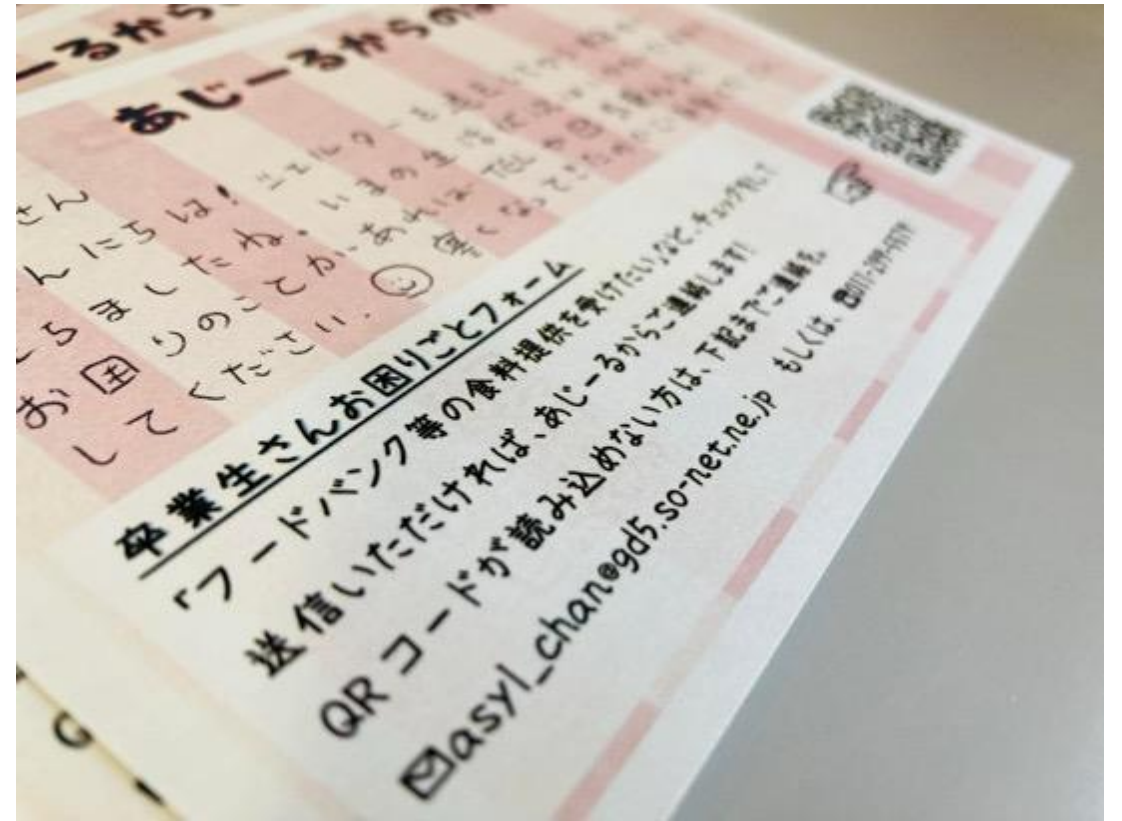
孤立をさせない取り組み

退去 1 ヶ月後の電話連絡

- 「あまり連絡は取れないのではないか」という予想に反して、9割近いひとが電話に出たり、折り返しの連絡をくれる。
- 多くのひとは「楽ではないけど安心して日々暮らしている」という反応。
- 電話連絡後に、泣きながら面談室に来た若い女性もいた。退去後に妊娠が発覚し、どうしたらいいかわからずに混乱していた。

卒業生さんお困りごとフォーム

- 退去から半年後に送付。
- Googleフォームで可能な限り簡素な項目で「卒業生さんお困りごとフォーム」づくり、QRコードをつけて、手書きのメッセージとともに郵送。
- 困りごとにチェックを入れて連絡先を入れて送信したら、あじーるから連絡する仕組み。



居場所（サロン）

- 平日日中に開放。利用者や卒業生が自由に滞在できる居場所。
- お留守番ボランティアが常駐する日が週3～4日。
- 当事者研究や社会体験事業、季節のイベントの会場にも。



お昼ご飯を みんなで食べる

- ボランティアさんが
つくる温かいできた
てのお昼ご飯を、み
んなで一緒に食べる。
- 「家族で食卓を囲ん
でご飯を食べたこと
がない」というひと
も。



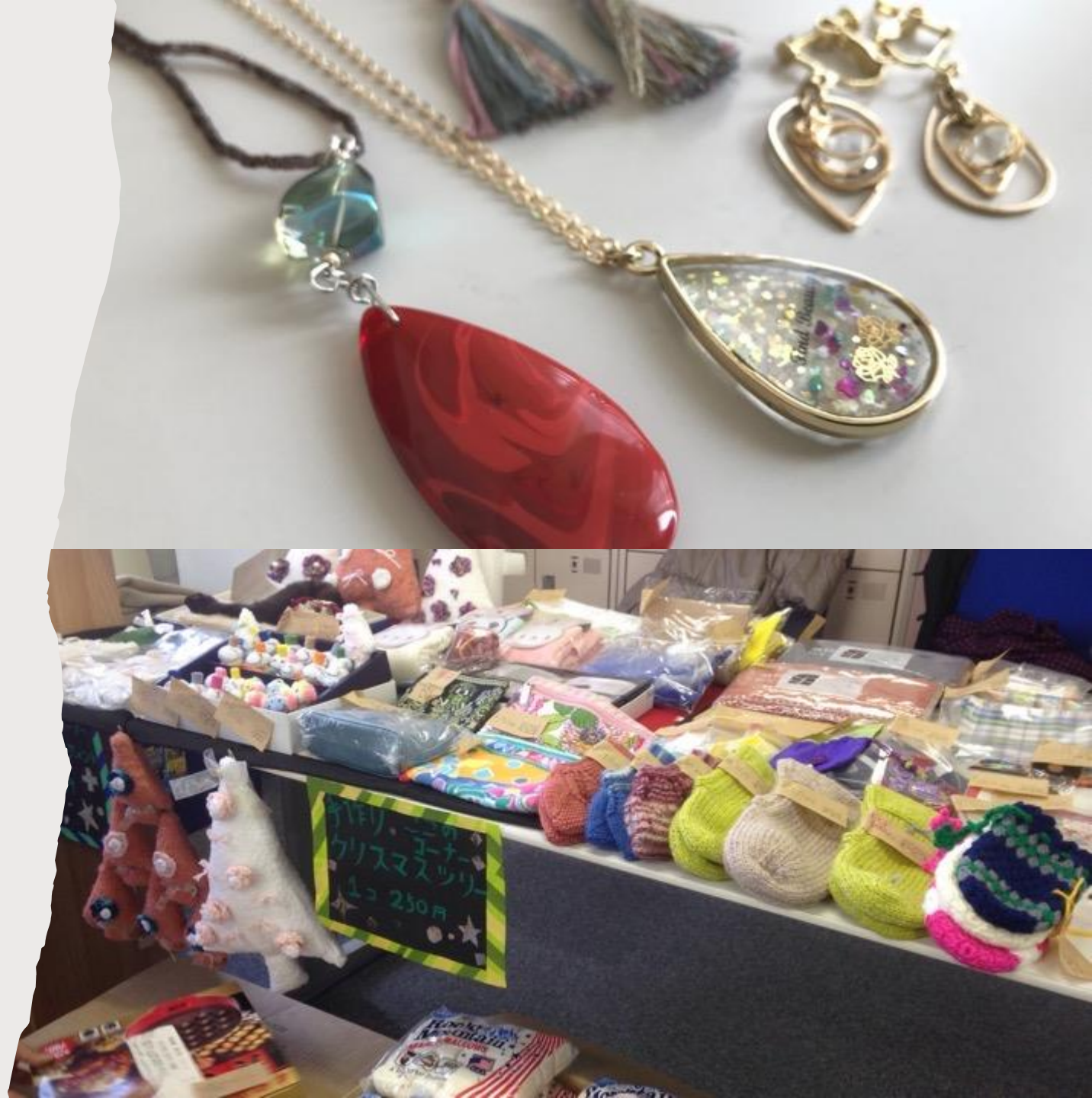
ボランティア参加型サロンの効果

- 現在、お昼ご飯づくり 4 名、お留守番ボランティア 5 名、傾聴ボランティア 1 名。
- シェルター卒業生のボランティア参加 2 名。
 - 利用者目線でのアイデア出しや関わり。
- さまざまな人生経験のボランティアとの雑談。
- 職員には話しづらいことも、ボランティアという「自由な関係性」だから出てくるお話がたくさんある。

傾聴による心の回復。現場の風通しが良くなる。さまざまなひととのコミュニケーションを通じて社会性の育み。ほかの利用者を支えることでの自己効力感向上。

レクリエーション

- 編み物やアクセサリーづくりなど、みんなで集まってなにかをする経験。
- フリーマーケットで販売。
- お花見や動物園、宿泊研修など。
- **横のつながりを広げて、孤立を防ぐ。**



振袖撮影会

人生で振袖を着る機会がなかったという方のための企画。

(2022年10月)



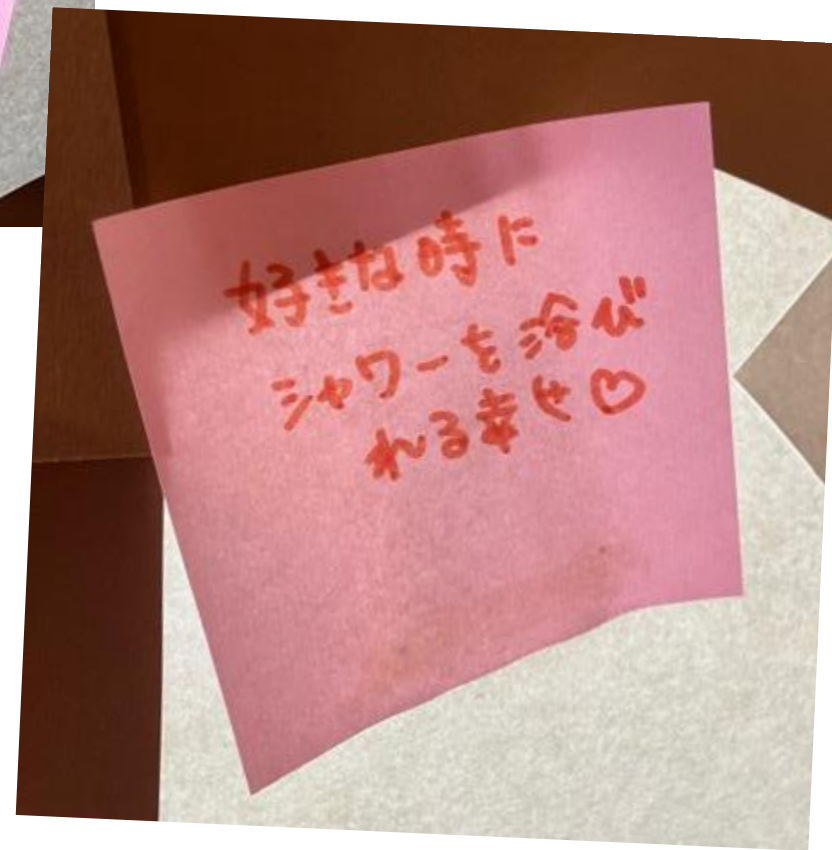


プレイバックシアター

参加者の「語り」の即興劇。(2023年9月)

そのほかの取り組み

- **年賀状**は毎年、住所がわかる全退去者に手書きメッセージを添えて送っている。
- 季節のイベントや退去者交流会は毎回10~20名参加。



つまずきポイント「金銭管理」

退去後に金銭管理につまづくひとが、かなり多い。

一人暮らし経験がなく、家計を管理する経験がない。

失敗をしても助けてくれるひとがおらず即居所を失う。

友人などインフォーマルな助けのほうを頼る結果、泥沼化。

短絡的な解決に走ってしまう。隠れた障害、依存症など。

伴走支援「お金のやりくりチャレンジプログラム」

家計改善支援事業ではなく、自主事業。封筒分けなどのお手伝い。

こちらへ出向く**交通費もない**ひとが多いので訪問メイン。

状況によって、フードバンクにつなげるなどの緊急支援も実施。

お金の やりくりノート



独立行政法人福祉医療機構WAM助成



お金のやりくりタイプ診断 自己チェックシート

まずは、いまの自分のお金のやりくりの状態を把握しましょう。

A~Cをそれぞれチェックしてみましょう!

A

- 毎月どのくらいの収入があって、どのくらいの出費をしているか、金額を把握していない。
- 滞納しても、来月にまとめて払えば大丈夫だと思う。
- 支払いがピンチのとき、日払いや短期の仕事を受けて返すことが多い。
- もし収入が下がっても、生活レベルを落とすのはむずかしい。
- 遊ぶときは、上限を決めずに遊んでいる。

チェック _____ 個

B

- 借金が30万円以上ある。
- 毎月の借金の返済額が、収入の2割を超えている。
- 返さなきゃいけないお金を、踏み倒したことが過去にある。
- 借りたお金を返すために、さらにお金を借りたことがある。

チェック _____ 個

C

- お金がないときでも、欲しいものがあるとつい買ってしまふ。
- アルコールやタバコを毎日嗜んでいる。
- パチンコやギャンブルで毎月のやりくりがピンチになることがある。
- ギガ(通信量)が足りなくなって課金をすることが年に3回以上ある。
- ハマっているものにはお金をいくらでも注ぎ込んでしまふ。
- 周りから心配や注意をされても、やめられない癖や習慣がある。

チェック _____ 個

タイプ診断結果

みなさんのお金のやりくりのタイプと、気をつけることがわかります。

A のチェックが 3 個以上

→ まずは計算をしてみましょう。

まずは、毎月どのくらいお金が入ってきて、どのくらい出ていくのかを把握することから始まります。この冊子のモデルケース(p.5)、「封筒わけ管理法」(p.9)が役に立つかもしれません。

B のチェックが 2 個以上

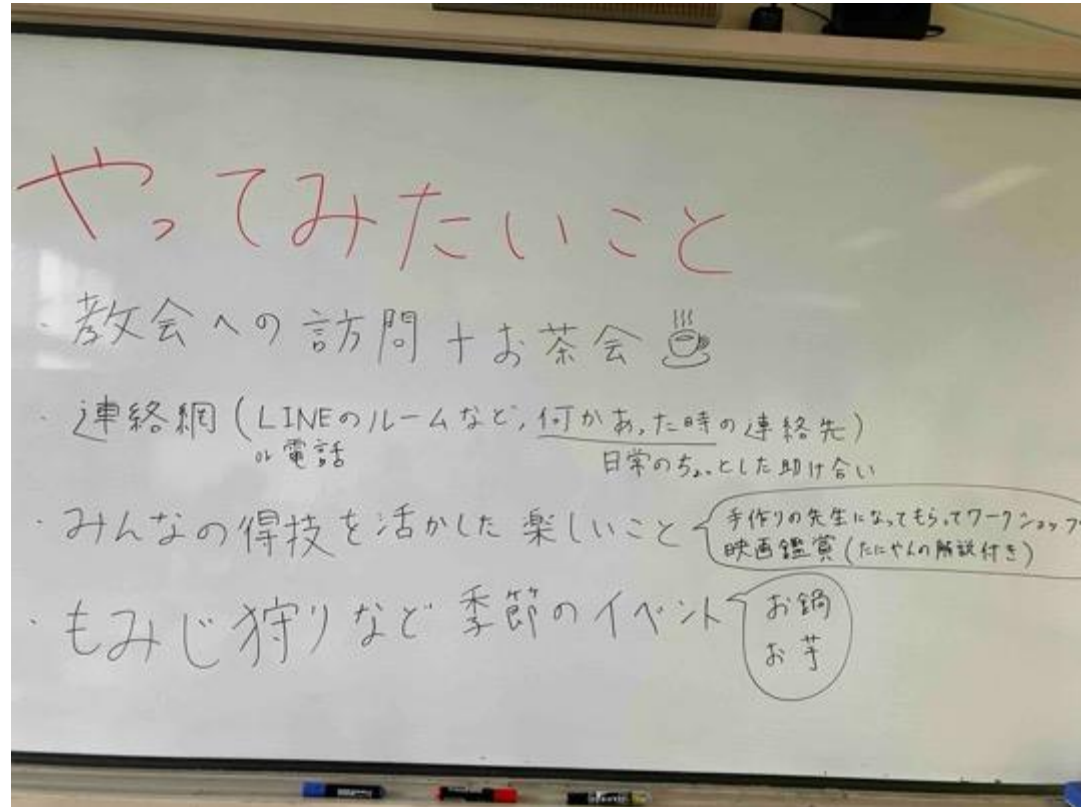
→ 債務整理という方法もあります。

「自己破産したらもう一生、お金を借りられなくなるのでは?」「弁護士費用はどうしたら?」というご心配をよく聞きます。法テラスという国の制度を使えば、弁護士費用の一時立替と、一定の条件のもとで全額免除を受けることができます。

C のチェックが 3 個以上

→ 医療の専門的な力が必要かもしれません。

アルコールやタバコ、ギャンブルなどは脳内物質に直接働きかけることでつよい依存性があり、じぶんの力だけで克服するのは困難といわれています。依存症と診断されるとき、「自分は違う」と思われる方がほとんどです。もしお金のやりくりがうまくいかず、その原因が「やめられない癖」だったときには、専門機関に相談してみるのも手です。



まとめ

ホームがないひとに、ホームをつくれるかどうか。
支援員との関係が地域の入り口＝「ミクロなホーム」
そのために、丁寧な時間の重ね方が必要。

そのひとの「庭」が豊かになるように。

シェルターが地域と豊かな関係性をもつ。



【おまけ】

線の関係づくりから、
面の関係づくりへ

互助会づくりへの取り組み